



2020年度
国際キャリア教育プログラム

国際キャリア教育 事前学習資料集

主催：大学コンソーシアムとちぎ 宇都宮大学
後援：(公社) 栃木県経済同友会 (公財) 栃木県国際交流協会、
NPO 法人宇都宮市国際交流協会 いっくら国際文化交流会 JICA 筑波センター
協賛：(一財) 栃木県青年会館 (公財) あしぎん国際交流財団
特別協力：宇都宮市創造都市研究センター

目次

(敬称略)

目標とルール	1
はじめに	2
実施要綱	3
プログラム	4
倫理綱領・個別ガイドライン・問題事例	5
「全体講義」との講師の紹介（重田 康博）	
混迷の時代の国際キャリアを考えるー真のグローバル人材に必要な条件	6
分科会 A と講師の紹介（秋元 信彦）	
「百聞は一見に如かず」で現地を体験しよう！	8
分科会 B と講師の紹介（山本 純子）	
コーチングを使ったコミュニケーションの極意	10
分科会 C と講師の紹介（鈴木 晶子）	
ライフキャリアをデザインする	12
分科会 D と講師の紹介（大久保 達弘）	
学際フィールドワークを試してみる	14
分科会 E と講師の紹介（長谷川 万由美）	
災害復興支援と災害に強いまちづくり	17
分科会 F と講師の紹介（若園 雄志郎）	
いくつもの日本～アイヌ民族から考える多文化共生～	20

●目標とルール

国際キャリア教育合宿セミナーの参加者はルールを守り、目標の達成に向けて励んでください。

目標

- 「働く」とはどのようなことなのかについて考える。
- 自分と地域社会や世界とのつながりについて考える。
- 主体的に関わりたい分野を見つけ、今後の学びに向けた“きっかけ”を得る。

ルール

- どんな意見も臆せず、積極的に発言しよう。
- 一人ひとりが参加者の自覚をもとう。
- 異なる意見を尊重するとともに自分の意見をもとう。
- 自分独自の意見を述べよう。
- 多様な発想を生み出す雰囲気をつくろう。
- 時間厳守で行動しよう！
- 安全、健康に注意をしよう。

国際キャリア教育プログラムに参加される皆様

国際キャリア教育運営委員会 委員長
国際学部国際学科 教授

重田 康博



宇都宮大学、大学コンソーシアムとちぎ、そして全国の大学生、社会人の皆さん、国際キャリアについて考えたことがありますか。

大学時代に、就職活動に入る前に、国際キャリアのプログラムに参加してみたい、国際的な問題に対応する職場や海外で国際インターンをしてみたい、あるいは今、政府、企業、大学で叫ばれている、「グローバル人材」の育成のためのプログラムに参加してみたいと思う方がいるかもしれません。

そのように考えている皆さんのニーズに応えるのが、グローバルマインドを養う「国際キャリア教育プログラム」です。本プログラムは、宇都宮大学国際学部や栃木県の大学が中心になって 2004 年から毎年実施され、過去 16 年間における参加者数は約 1720 名に及び、多くの学生（宇都宮大学生、他大学等含）が参加しております。

このプログラムの科目は、学生が働く意味やキャリア教育について考える「国際キャリア教育」、英語で全て授業を行う「International Career Seminar」、国内や海外の企業、公的機関、NGO・NPO でインターンシップを行う「国際キャリア実習」の 3 科目、6 単位で構成されています。いずれも夏季と春季の休業期間に行い、講義は 1 科目 2 泊 3 泊の集中合宿方式で、キャリア実習は 80 時間で行います。本年度からは、新たに共通テーマを「グローバル化時代の地域とキャリア」とし、「地域からのグローバル化(Globalization)」、「地域のグローバル化 (Glocalization)」の 2 つの柱を立て、国際ビジネス、国際協力・国際貢献、多文化共生と日本、異文化理解・コミュニケーションの 4 つのテーマで分科会を構成します。講義ではその道のプロの専門家や講師を揃え、実習では国内・海外で魅力的で個性的な研修先を用意しています。3 科目すべての実習を勧めますが、選択的な受講も可能です。

「国際キャリア教育プログラム」は、毎年宇都宮市や栃木県内だけでなく、全国から大学生、社会人が多数参加します。皆さんもこのプログラムに参加して、国際キャリアについて一緒に学び、国際社会や地域社会への「キャリアパス」の可能性を探っていきましょう。

最後に、本プログラムは、栃木県からの支援を受けて、大学コンソーシアムとちぎとの共同事業として企画しましたが、その実施に際しましては、(公社) 栃木県経済同友会、(公財) 栃木県国際交流協会、NPO 法人宇都宮市国際交流協会、いっくら国際文化交流会、そして、JICA 筑波センターからご後援をいただきました。また、(一財) 栃木県青年会館、(公財) あしぎん国際交流財団からはご協賛、宇都宮市創造都市研究センターからは特別協力をいただきました。ご関係の皆様からの多大なご理解とご支援に対し、主催者を代表して、厚くお礼申し上げます。

●実施要綱

- 1) 科 目 名 : 国際キャリア教育
- 2) テ ー マ : グローバル時代のキャリア形成を考える
- 3) 日 程 : 2020年9月19日(土)～21日(月祝)
全体会事前指導: 2000年7月28日(火) 18:00-19:00
分科会事前指導: 2000年7月29日(水) 18:00-19:30
- 4) 実施形態 : Zoomによるオンライン授業
- 5) プログラム : 2頁を参照
- 6) 参加定員 : 50名
- 7) 参加費 : 無料 ※ネットワーク通信料等は自己負担となります
- 8) 問 合 せ : 宇都宮大学 峰キャンパス事務部(5号館C棟1階)
担当: 佐藤
<所在地> 〒321-8505 宇都宮市峰町 350
<問合先> TEL: 028-649-5172(直通) FAX: 028-649-5171
E-mail: kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

●プログラム（敬称略）

1日目（9月19日 土曜日）

時 間	内 容
09:00～09:30	受付
09:30～10:40	開講式・オリエンテーション
09:50～12:00	全体会（全体講義・ワークショップ）
12:00～12:50	昼食
13:00～15:00	パネルトーク「グローバル時代におけるキャリア形成について」
15:10～15:30	趣旨説明（分科会および全体発表のプレゼン方法の説明など）
15:50～17:50	分科会 1
	分科会「国際ビジネス A」 講師：秋元 信彦
	分科会「異文化理解コミュニケーション B」 講師：山本 純子
	分科会「国際協力・国際貢献 C」 講師：鈴木 晶子
	分科会「国際協力・国際貢献 D」 講師：大久保 達弘
	分科会「国際協力・国際災害救援 E」 講師：長谷川 万由美
	分科会「多文化共生と日本 F」 講師：若園 雄志郎

2日目（9月20日 日曜日）

時 間	内 容
08:30～12:00	分科会 2
12:00～12:50	昼食
13:00～15:30	分科会 3
15:30～16:30	分科会 4（分科会まとめ・中間発表準備）
16:30～17:30	中間発表
17:30～18:30	分科会 5（発表準備）

3日目（9月21日 月曜日）

時 間	内 容
09:00～10:00	発表準備
10:00～12:20	全体発表
12:20～13:10	昼食
13:30～14:30	ふりかえり・閉講式

1. 国際キャリア教育プログラム倫理綱領

本プログラムの関係者は、以下の原則に従って行動します。

- ① その活動において、常に基本的人権と個人の尊厳を尊重します。
- ② 国際学部並びに本プログラムの教育目標の実現に資する教育を行うために、改善と向上に努め、学生の自発的な学習を支援します。
- ③ 学修目標を明確に示し、学生への対応や成績評価などの学生指導全般において、公正を確保します。
- ④ 個人情報の保護に最大限の注意を払います。

2. 倫理綱領に基づく個別ガイドライン

以上の倫理綱領に基づき、特に以下の点について配慮をお願いいたします。

- ① 人種やジェンダー、言語、宗教、国籍、社会的背景、年齢等が異なる多様な参加者で構成されているプログラムであることに留意しつつ行動します。
- ② 食事や信仰生活を含む生活様式を尊重し、可能な限り対応します。
- ③ ハラスメントに該当する行為は決して行いません。
- ④ ハラスメントに関する情報を得たり相談を受けた場合には、放置せずに対応します。
- ⑤ 参加者による主体的な学びを尊重し、その提案や意見を積極的に取り入れます。

3. 具体的な過去の問題事例

(事例にある「参加者」とは、講師、スタッフ、学生等の参加者全員を意味します。)

事例 1) 国籍による差別発言

ある参加者から「A 国人は物を盗む」といった国籍による差別的な発言があり、その国籍を有する他の参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

事例 2) ジェンダーや多様性への配慮を欠いた発言

ある参加者が、男性的な服装をしている女性の参加者に対して、「いい歳なのだから、もう少し女性らしくしないと」とジェンダーに関する配慮に欠ける発言があった。その結果、トランスジェンダー¹であるその女性参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

事例 3) ハラスメントに該当する行為や発言

ある男性参加者が懇親会で他の参加者に酒を飲むようにしつつこく勧め、男女問わず「付き合っている人はいるのか」等と質問をして無理に答えを聞こうとしたり、女性の参加者に対して酔っ払いながら「肩をもんでくれ」と頼んだりした。

事例 4) 主体性や協働を認めない教育

分科会において講師が一方的に講義を続けたり、一部の参加者のみが発言を独占する事態が発生した。その結果、学生たちが主体的に協力しながら行う議論や全体発表準備のための作業時間を、十分確保することができなかった。

事例 5) 許可を得ないで行う個人情報や写真の使用

ある参加者が、他の参加者の連絡先などの個人情報や撮影した写真を、相手の許可なく SNS などを使って公開し、別の目的で利用した。

¹ トランスジェンダーとは、出生時に決定された性別に性的違和（性同一性障害）があり、性別を変えて生活していたり、性別を変えたいと思っている人（性と人権ネットワーク作成パネル、2014年より）。

混迷の時代の国際キャリアを考える

— 真のグローバル人材に必要な条件 —

☆講師プロフィール

氏名：重田 康博（しげた やすひろ）

所属：宇都宮大学 国際学部 教授

国際キャリア教育運営委員会委員長



略歴：

北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程修了（博士・学術）

国際協力推進協会（APIC）主任研究員、クリスチャン・エイド客員研究員（イギリス・ロンドン）、現、国際協力 NGO センター（JANIC）主幹等を経て現職。専門は国際開発研究、国際 NGO 研究。開発教育協会評議員、JVC とちぎネットワーク代表。CMPS 福島乳幼児妊産婦プロジェクト・アドバイザー、JANIC 政策提言アドバイザー。著書に『NGO の発展の軌跡』（明石書店 2005）、『国際 NGO が世界を変える』（共著、東信堂 2006）、「第 4 章ミレニアム開発目標」田中治彦編著『開発教育—持続可能な世界のために』（学文社 2008）、重田康博『激動するグローバル市民社会—慈善から公正へ発展と展開』明石書店、2017 年

全体講義の内容

今世界は混迷の時代と言われています。その混迷の時代を生きるための真のグローバル人材とは何か、その必要な条件を具体的な事例を示しながら紹介し、国際キャリア形成について考えます。

★最初に、混迷の時代とはどのような時代なのかを説明します。

21 世紀は 9.11 米国同時多発テロに始まり、今日まで世界のいたるところで、未曾有の危機が発生しています。米国などの主導による経済のグローバリゼーションの進行により、かつての先進国と途上国の間の格差だけではなく、同じ国の中の富者と貧者、都市生活者と農今世界各地で、国家の分断、孤立、難民・移民の排除、自国第一主義とポピュリズムの波が押し寄せ、第 2 次世界大戦後世界の多くの国が目指してきた、「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の危機が叫ばれています。

このような「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の崩壊の危機の中で、NGO・CSO（市民社会組織）も含めたグローバル市民社会による多元主義の再構築と公共圏の形成が求められています。

この危機をどのように乗り越えるのか、どのように「国際協調主義」と「共生できる寛容な社会」を取り戻せるのでしょうか。混迷する時代を生きるためにグローバル人材をどのように育成すればいいのでしょうか。

★次に、「グローバル人材」とは、何かを説明します。

では、「グローバル人材」にはどのような能力が求められるのでしょうか。2011年6月文部省「グローバル人材育成推進会議」中間まとめでは、そのポイントとして、「語学力向上（英語）」と「内向き志向」の克服で、その取組みは「英語」と「海外体験」となっています。しかし、この「英語」と「海外体験」だけで今の混迷の時代を生きるグローバル人材を育てられるのでしょうか？

☆宇都宮大学グローバル構想—「地域からのグローバル化」「地域のグローバル化」に貢献

☆国際学部国際学科において養成する人材像（改組に伴い2017年4月から実施）

⇒21世紀型グローバル人材（グローバル人材）の育成

☆国際学部の卒業生は、その多くがグローバル企業、マスコミ、NGOなどで働き、国内外で活躍しています。

★最後に、地球公益を目指す「グローバル（地球）市民」について説明します。

「グローバル（地球）市民」として生きるためには、「グローバル（地球）市民社会」の育成が必要だと思えます。つまり、「国際協調」を超えた「地球公益」を求めていく人間や社会を育て、「非寛容社会」から「寛容社会」への価値観の転換が求められています。

☆国連による「持続可能な開発目標（SDGs、Sustainable Development Goals）」は、2015年9月の国連総会で採択され、17の目標と169のターゲットからなり、2016年から2030年までの15年間世界の国々はこの開発目標の達成に向けて取り組み、その達成のために、国際機関、国家、企業、NGO・CSOが問題の解決に向けて取り組むことが求められています。

☆「地球公益（地球市民のための公益、Global Public Interests）」とは、公正な地球社会を求める世界の人々のための非営利活動です。その根底にあるのは公正、寛容、包摂、共生、多様性、多文化です。「地球公益」を求めることは、グローバルマインドを養い、グローバル人材を育成することだと思えます。

参考文献

- 駒井洋監修/五十嵐泰正・明石純一編著『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店、2015年
- 加藤／九木元『グローバル人材とは誰か 若者の海外経験の意味を問う』青弓社、2016年
- 重田康博『激動するグローバル市民社会—慈善から公正へ発展と展開』明石書店、2017年
- 友松篤信『グローバルキャリア教育—グローバル人材の育成』ナカニシヤ出版 2012年

「百聞は一見に如かず」で現地を体験しよう!

☆講師プロフィール

氏名：秋元 信彦（あきもと のぶひこ）

所属：株式会社パン・アキモト
専務取締役 なんでも係

略歴：

1979 年生まれ（40 歳）

栃木県立黒磯南高校卒業 トラベルジャーナル旅行専門学校卒業

コンコーディアユニバーシティカリフォルニアに 1 年半の遊学（米国同時多発テロ発生の為帰国）

2001 年 株式会社 HIS 入社

2007 年 株式会社パン・アキモト入社

趣味は子供たちとサッカーをする事！



1. 仕事の内容・研究テーマ

私は専務取締役との役職がついておりますが、名刺にも記載してある通り「なんでも係」です。弊社は中小企業の為、大企業のようにいつも決まった業務だけを行う訳ではなく、必要であれば「お店番」「配達」「生産管理」「出荷作業」等々をなんでも行います。その中でもパンの缶詰を広める「営業」がメインの仕事になり全国各地を飛び回っております。その為、様々な地域の方や様々な職種の方等、老若男女問わず商談を行うことができ色々な考え方を学ぶことが出来ます。

2. キャリアパス

私は有名大学を卒業したわけではなく、決して勉学に励んできたわけでもありません。ただし、多くの人との良き出会いがあり、学校では教えて頂けない「人生経験」を沢山学ばせて頂いております。それは現在の会社だけではなく、前職の HIS（旅行会社）でも同じです。

3. 分科会の内容

当たり前ですが、分科会では私が経験をした事以上の事はお伝えする事が出来ません。しかし、国内外を含め災害被災地や貧困地域へ実際に伺った事により現地でしか体現できない事、その体現してきた事を元に勉強してきた事をベースに今後の「SDG's」のあり方等を議論したいと考えております。

4. キーワードリスト

事前に調べておいてください。

- ・SDGs
- ・なぜ仕事をしなければいけないか？（仕事の意義）

・仕事をするなら何を目的に行うか？（上位3つ程度）

5. 参考資料等

下記の URL を一読しておいてください。

<https://cocplus.utsunomiya-u.ac.jp/backnumber/interview2/interview1.html>

※講師の事を事前に知ってもらう為。

6. 事前予習用リーディング課題

① 小さなパン屋が社会を変える

<https://wedge.ismedia.jp/articles/-/14446>

※もし可能であれば購入して事前に一読してもらえると幸いです。

② 掃除道

<https://www.amazon.co.jp/%E6%8E%83%E9%99%A4%E9%81%93->

[PHP%E6%96%87%E5%BA%AB-%E9%8D%B5%E5%B1%B1-%E7%A7%80%E4%B8%89%E9%83%8E/dp/4569668801](https://www.amazon.co.jp/%E6%8E%83%E9%99%A4%E9%81%93-PHP%E6%96%87%E5%BA%AB-%E9%8D%B5%E5%B1%B1-%E7%A7%80%E4%B8%89%E9%83%8E/dp/4569668801)

※もし可能であれば購入して事前に一読してもらえると幸いです。

③ 取材記事

<https://news.yahoo.co.jp/byline/iderumi/20181129-00105844/>

https://www.aichicorp.co.jp/application/files/1715/0096/6188/CABIN91_full.pdf

※表紙から P7 まで

コーチングを使ったコミュニケーションの極意

☆講師プロフィール

氏名：山本 純子（やまもと じゅんこ）

所属：ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社

常務取締役

略歴：

フェリス女学院大学卒業後、祖父の経営する印刷・広告会社に入社。2012年に ICC Executive Coach の資格を取得したことをきっかけに企業向け人材育成コーチングを始める。又、2018年からは MBA を取得するために University of Massachusetts Lowell に入学。2人の娘の母としても奮闘中。



1. 仕事の内容・研究テーマ

【コーチングを始めた経緯】

私が就職した当時は印刷物制作中心の会社であり、出来るだけたくさんの人たちに満遍なく情報を伝えるような広告手法が主でした。2000年前後から栃木でもインターネットがかなり普及し、クチコミサイト「栃ナビ！」をオープン。ばらまく情報から取りに行く情報へと世の中が変化していく時期でした。そんな中順調に成長していくポータルサイト「栃ナビ！」の全国展開が始まり、各地の会社とパートナーシップを結び運営を委託するようになりました。その際に、各社の経営者の考えや組織体制など大きな企業文化の違いを感じ、その文化のギャップを埋めるべくコーチングを取り入れたのがきっかけでした。その手法は非常に有効で大きな成果を出し、その後ビジネスにおいても弊社の武器となってきました。

2. キャリアパス

栃木県宇都宮市生まれ。大学卒業後栃木に戻り、父親の経営するヤマゼンコミュニケーションズ(株)に入社。結婚を機に退職し、2人の娘を出産。主婦として数年を過ごしましたが、次女が幼稚園に入園したタイミングに仕事に復帰。数年のブランクがあったため、社長である父親から何か”自分にしか出来ないこと”を身に付けることが復帰の条件だと言われました。”自分は何が得意で、何がしたいのだろう” ”自分にしか出来ないことって何だろう”と自分に問いかけても何の答えも見つからず、40才手前で改めて自分と向き合うことになりました。

まず、以前から興味があった心理学(NLP)の資格を取得しましたが、その先の活用のビジョンが見えずにいました。そんな折に恩師である NLP のジョセフ・オコナー氏との出会いにより” Executive Coaching ”を学び、Business, Team, Leadership, Life の4つのジャンルのコーチングスキルを会得し、ビジネスとしての展開が出来るようになりました。

現在では多くの顧問先を持ち、人材育成のためのコーチングや、研修、メンタルヘルスなどを受け持っています。

3. 分科会の内容

そもそも人は一人一人違うものであり、その違いを知り、受け入れ、ともに尊重していくことが大切。

まずは自分が何者かを知ることが重要です。

分科会では”自分の価値観や信念”を過去にまでさかのぼって探求していきます。

また学習スタイルによる人のタイプ分け、それぞれの行動パターン、思考パターンなどの抽出などのワークショップを取り入れ、多方面からの分析を行います。

自分を理解したら、次は他者理解、つまりコミュニケーションスキルを学び、その二つのアプローチにより、より良い人間関係の構築が出来るようになります。

人生の選択肢を増やすことが大きな目的です

4. キーワードリスト

- ・価値観とは
- ・信念とは
- ・コーチングとは

5. 参考資料等

NLPでコーチング～最高の人生を生きるためのライフ・コーチング実践ガイド～
ジョセフ・オコナー&アンドレア・ラゲス著 ISBN-13: 978-4885090820

6. 事前予習用課題

コーチと先生、メンターとコンサルタントの違いを説明してください。

ライフキャリアをデザインする

☆講師プロフィール

氏名：鈴木 晶子（すずき あきこ）

所属：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
広報・リレーションズ課 課長

略歴：

2005年入職。これまで、6カ国、1難民キャンプ、1島で教育協力、緊急救援事業に従事。海外での勤務経験で最も長いのは、カンボジアの4年間。

プロコーチ養成スクール、青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラム卒業。コミュニケーションを通じた学びに関心を持ち、年間30回ほど講演やワークショップを行う。

鈴木晶子、山本英里、三宅隆史著、シャンティ国際ボランティア会編「わたしは10歳、本を知らずに育ったの」合同出版、2017年



1. 仕事の内容・研究テーマ

2015年より、NGOでマネジメントをしています。主に以下に従事しています。

・広報

全国の学校、企業、団体などで講演。機関誌の企画・編集、原稿執筆、取材の受け入れなどのメディア対応、イベントの企画・運営、映像・写真の撮影同行などを担当しています。

「声なき声を伝える」を大切にしています。NGOが活動している対象地域では、声を上げることが難しい、あるいは声を上げても届きづらい状況があります。私たちは、その声を聞き、そしてSNS、紙媒体など多様な方法で伝えることを行っています。

・ファンドレイジング

オンラインやDM、イベントなどでの寄付訴求を担当しています。NGOの活動は、様々な方の理解と協力で運営しています。「ファンドレイジング」は「ファン『度』レイジング」とも言われます。NGOにとって、寄付を募ることは単に活動資金を集めることではありません。団体が取り組む活動を通して、社会をよりよくすることへの賛同を得るということです。寄付者にとっては、寄付をすることで自分自身が社会変革の一員であるという思いを共有することが大切です。

2. キャリアパス

【～大学卒業】

幼少期をアメリカで過ごした後、岐阜県高山市に移住。高校生の時にイギリスに短期留学。大学進学のため上京。大学時代、国際交流やソフトパワーによって多様な価値観が認められる社会が形成できるのではないかと思い、国際交流基金や海外と日本の子どもの交流を行うNGOでインターンシップを経験しました。就職活動を開始した頃、9.11同時多発テロが発生し、自分の進路について悩み、内定を受けていた会社を辞退し、NGOの道に進むことにしました。

【～20代】

現在の所属団体に緊急救援担当として入職。直後から新潟、三宅島、パキスタン、インドネシアなど、日本国内外の災害支援現場に派遣され、事業の立ち上げ、実施しました。その後、活動地域のカウンターパート、受益者に向き合って長期的に事業を行いたいと思い、カンボジア事務所に駐在。4年間で100を超える小学校に図書館を設置したJICA草の根パートナー事業、小学校建設、スラムでの移動図書館活動などを担当しました。カンボジア駐在中、在カンボジアNGO日本人ネットワーク（JNNC）の世話人、ENJJ（大使館、NGO、JICA、商工会）の教育分科会の世話人を担当。情報を共有し、発信するネットワークの大切さを学びました。また、アジア環太平洋地域で基礎教育、成人識字教育を行う団体が所属するネットワーク（ASPBAE）がフィリピンで開催したリーダーシップ研修に参加。他地域から参加したソーシャルワーカーと共に、学びを深めました。

【～30代】

駐在終了後、東京で海外事業課に所属し、タイ・ミャンマー国境の難民事業、バンコクのスラム事業担当として勤務を開始。2011年、東日本大震災発生直後から気仙沼市に派遣。社会福祉協議会と連携して災害ボランティアセンターの立ち上げサポートに従事。状況が落ち着いた後、本来の海外事業担当として年に4回ほど、難民キャンプ、スラムに出張し事業運営を行いました。2015年には、研修のため渡米。ニューヨークを拠点に、アメリカの非営利組織の運営、マーケティングなどを学びました。その後、課長という立場でチームを引っ張るというマネジメント業務、広報、ファンドレイジングを担当しています。30代で結婚し、現在は夫と2人で生活しています。

3. 分科会の内容

変化する国際協力業界では、自分の得意なことを伸ばし、納得感があるキャリアを形成することが大切です。多様な働き方が求められる中、自分らしい生き方、働き方とは何かを一緒に考えてみたいと思います。

分科会1：アイスブレイキング（自己紹介）

導入講義、ワーク「国際協力の仕事～あなたが大切にしていることは？～」

分科会2、3：

・「世界の課題」に対して自分は「どの課題を解いて、どうしたいのか」「何に有限なかけがえの無い大切な自分の時間をどう使っていくのか」「誰と解きたいか」ワークやディスカッションを通して考えます。

4. キーワードリスト(事前に調べてほしいキーワード)

- ・NGO
- ・企業による社会貢献
- ・国際協力
- ・SDGs

5. 参考資料

緒方貞子「私の仕事 国連難民高等弁務官の10年と平和の構築」朝日新聞出版、2019年
ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド 著
「FACTFULNESS」日経BP、2019年

6. 予習用リーディング課題

監修池上彰「なぜ僕らは働くのか」学研プラス、2020年

学際フィールドワークを試してみる

☆講師プロフィール

氏名：大久保 達弘（おおくぼ たつひろ）

所属：宇都宮大学

農学部 森林科学科 教授

略歴：

1959年東京都生まれ、東京、名古屋、神奈川で育ちました。小中学校ではボーイスカウトで野外活動の楽しさを体験し、高校時代は登山、天文学、植物科学に興味を持ち、宇都宮大学農学部で林学を専攻し、大学院でブナ林の生態学を学びました。宇都宮大学に助手として就職した後、ヨーロッパ、アメリカ、東南アジア（マレーシア・サラワク州、北タイ、中国西南部）での短期・長期のフィールドベースの研究を継続しています。また最近は、大学間協定校マレーシア・サラワク大学（UNIMAS）の全学の海外英語研修で引率教員も務めています。



1. 仕事の内容・研究テーマ

農学部森林科学科と大学院修士課程森林生産保全学プログラムで、森林生態学、育林学、森林立地環境学（主に森林土壌）、森林保護学（森林火災、生物害、原子力災害など）およびそれらの実験実習科目を教えています。フィールド中心の森林生態学研究者で、現在の研究テーマは「東南アジアの熱帯林（サラワク・マレーシア、タイ北部、中国南部）および東アジアの温帯落葉樹林（日本、韓国）における生態系再生回復力のパターンとプロセスに及ぼす自然・人為的攪乱の影響」に取り組んでいます。大学農学部里山科学センターの創設メンバーであり、センター長を務めました。2010年に名古屋で開催された国連生物多様性条約 COP10 では、日本里山・里海アセスメント（JSSA）の関東中部クラスター共同代表を務め、報告書「関東中部クラスター：里山・里海生態系と人間生活における里山・里海・都市の未来：日本の社会生態学的生産風景」をまとめました。2011年の福島原発事故後、栃木県里山の落葉広葉樹林における落葉由来の堆肥生産の再開課題を中心に、森林生態系における放射性セシウム動態の研究を開始し現在に至っています。

2. キャリアパス

農学部で林学を学び、大学院修士課程林学専攻で森林生態学を学びました。卒業後は、大学での研究・教職に就きました。国際的な活動としては、韓国、ヨーロッパ、アメリカでブナ林の生態系に関する短期フィールド調査を開始。その後、マレーシアのサラワク、タイのチェンマイ、中国南西部で、劣化した森林地域の回復と回復力の研究に関する長期滞在型のフィールドベースの研究プロジェクトに参加しました。このプロジェクトを通して、チームビルディング、プロジェクト運営の重要性を知りました。2005年のサバティカル期間中には、米国 CT 州にある林学・環境学専門職大学院に客員教員として滞在する機会があり、世界各国からの大学院生と一緒に、持続可能な森林と自然資源管理に関する複雑な問題を解決するための学際的なアプローチを体験したほか、アクティブラーニングを通じた非母語話者の専門的なコミュニケーション能力の強化の重要性を実感しました。

3. 分科会の内容

本セッションの目的は、様々なバックグラウンドや分野の参加者が共通の関心を持つ“持続可能な土地利用や自然資源管理”に関する複雑な問題を解決するための学際的アプローチを中心に、研究プロジェクトの計画立案（課題設定、仮説提示など）、必要なスキルの習得、フィールドベースの研究への応用について議論することです。特に東南アジア・東アジアの農村・山岳地域でのフィールド研究について、参加者との相互の関心事について議論したいと考えています。

4. キーワードリスト

- ・フィールドサイエンス
- ・文理融合学際研究
- ・自然資源管理
- ・農山村地域研究
- ・環境保全
- ・アグロフォレストリー（混農林業）

5. 参考資料等

- ・野口悠紀雄（2004）『「超」英語法』,講談社
- ・西村肇（1995）『サバイバル英語のすすめ』,ちくま新書,筑摩書房
- ・ウィリアム・A・ヴァンス（2017）『答え方が人生を変える』CCCメディアハウス

6. 事前予習用リーディング課題

以下のマレーシア・サラワク州と中国西南部での研究プロジェクトについて各リンク先から文献をダウンロードして、読んでおいてください。

- ・可知直毅・高井康雄（1998）特集：熱帯林の保全と修復にむけて、地球環境 Vol.03 No.1-2のうちから以下3つの文献

荻野和彦「熱帯林の保全と修復に向けて」、

櫻井克年「マレーシア・サラワク州・バカムにおける生態系修復を目指した試験造林」

山倉拓夫「熱帯林大規模長期観察計画－熱帯林研究100年の計－」

http://www.airies.or.jp/journal_03-1-2jpn.html

- ・出村克彦（2002）中国西南部における生態系の再構築と持続的生物生産性の総合的開発、平成14年度日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業研究成果報告書概要

https://www.jsps.go.jp/j-rftf/saishu/h14/f03_j.html

- ・黒河，功（2002）中国広西壮族自治区の少数民族集落における農家実態：大化県七百弄郷における農家実態調査データ分析、農業経営研究, 28, 127-139

https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/36574/1/28_127-140.pdf

さらにワークショップに参加する前に、4.のキーワードを確認した上で、参加者が興味を持った地域・国内外の天然資源管理の課題や、地域・地球規模の林業、農業、漁業関連などに関連した環境保全に関する課題を解決するためのプロジェクトを事例研究として選択し、以下の質問に対する回答・課題を準備してから参加してください。

- ・選択したプロジェクトにはどのような背景があるのか？

- ・どのようなプロジェクト内容であったのか？
- ・プロジェクトから得た教訓は何か？
- ・プロジェクトの強みは何か？
- ・プロジェクトの弱点は何か？
- ・もし他の方法で行うとするとどのようにしたらよいか？
- ・日本でも採用できることがあれば、それは何だったか？

災害復興支援と災害に強いまちづくり

☆講師プロフィール

氏名：長谷川 万由美(はせがわ まゆみ)

所属：宇都宮大学 共同教育学部 教授

略歴：

2000年より宇都宮大学教員。専門は地域福祉。

宇都宮大学学生ボランティア支援室担当教員として2011年の

東日本大震災、2015年の関東・東北豪雨災害、2019年の令和

元年台風19号などでの学生のボランティア活動をコーディネートした。「3.11学問の不確かさ」「災害復興学入門」「ボランティアという生き方」などの授業を担当している。



1. 仕事の内容・研究テーマ

今年の4月から宇都宮大学は群馬大学と共同教育学部を設置することになりました。学部の授業ではシティズンシップ教育やスクールソーシャルワークなど社会と学校がつながるところの教育の関わりや就学前の教育について担当しています。また最近では非言語的コミュニケーションを媒介とした仲間づくりやまちづくりに関心があり、公開講座などでは音楽を通じた仲間づくりやまちづくりの講座も担当しています。

研究の専門領域は地域福祉です。福祉(ふくし)とは「普段のくらしの幸せ」をいかに実現し、いかに保障していくかに関わる領域です。地域福祉はその中でも多様な人が暮らし、いろいろなことが日々おこるのが「地域」の普段のくらしを考えていく領域です。最近の研究テーマとしては「母乳で子どもを育てたいと思っているお母さんの支援」「減災絵本を通じた保育園児への防災教育」「被災地スタディツアーを通じた大学生のシティズンシップ教育」「子どもの貧困に対する教員の意識」「ドラムを通じたまちづくり」など一見、まとまりがないと思えるかもしれませんが、どれもみな地域で暮らす人の普段のくらしの幸せにつながるものだと考えています。

また東日本大震災をきっかけとして宇都宮大学でも被災地支援の活動が本格的にはじまりましたが、その中心となっている学生ボランティア支援室の担当教員として2011年以降は学生の災害ボランティア活動をコーディネートしてきました。

社会貢献として栃木県障害者自立支援協議会、栃木県防災会議、宇都宮市社会福祉審議会、下野市男女共同参画推進委員会、矢板市こども・子育て会議などの委員を務めています。

2. キャリアパス

大学ではアメリカ研究コースに所属し、アメリカの社会や文化に関心を持っていました。とくに、1960年代以降の公民権運動や女性解放運動に関心があり、卒業論文は人工妊娠中絶に関する政治的ディベートを扱いました。今から思うと、全く現在やっていることと無関係ではありませんが、とくにそれを仕事につなげようとは思いませんでした。学部卒業当時は女性は25歳までに結婚すべきという風潮もまだ強く(クリスマスケーキと同じ)一

生働ける仕事は何かを考えて公務員になり、専門的に勉強したこともないのに福祉事務所に配属され生活保護の現業員(ケースワーカー)として働き始めました。

しかし、役所でもやはり男女の違いが大きかったことなどもあり、数年でやめ、その後イギリスのシェフィールド大学社会学・社会政策学部で一年間聴講生としてすごしました。日本に帰ってくると、さらに年をとっていたので、まともな正規の職業につくことは難しく、社会調査でも勉強しておけば、修了後、マーケティング会社にでも勤められるのではないかと考えて、大学院社会学専攻に入学しました。大学院では福祉分野でのNPOの活動について調査研究をしていました。その後、博士課程まで進み、当時指導頂いていた先生が学部新設準備で違う大学に移るのにあたり、助手として採用してもらったのが、大学教員としてのスタートです。社会福祉士資格取得のための実習を立ち上げるため2年務めた後、宇大に就職しました。博士課程在籍中に第一子、宇大に来てから第二子を出産しました。

社会福祉士(ソーシャルワーカー)と保育士の資格を大学教員になってからとりました。私の仕事や研究の根底はソーシャルワーカーだと自認しています。国際ソーシャルワーカー連盟は「ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。」と定義しています。中でも社会正義は教育でも研究でももっとも大事にすべき原理ではないかと思っています。

3. 分科会の内容

自然災害の多い日本で災害時の支援について考えることは平常時の社会のあり方を考えることにもつながります。人のつながりを大切にしたい、災害に強いまちづくりに向けた災害からの復興についてみなさんがどんなことができるのでしょうか？この分科会では受講生のみなさんが災害復興支援や災害に強いまちづくりを自分のこととして捉え、具体的な行動にどうつなげていくかを考えていきたいと思っています。

分科会では、テーマに関する導入的な講義の後、キーワードに関して調べてきたことを発表し、その内容の検討からグループ討議に入ります。最終的にはグループでの検討の上、学生として取り組むアクションプランを作っていきます。

4. キーワードリスト

- ・防災・減災
- ・災害ボランティア
- ・まちづくり
- ・国土強靱化
- ・レジリエンス

5. 参考資料等

- ・広瀬 弘忠(2004)『人はなぜ逃げおくれるのか 一災害の心理学』(集英社新書)
- ・津久井 進(2012)『大災害と法』(岩波新書)
- ・防災白書, 内閣府, <http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/r2.html>
- ・ぼうさい甲子園 <http://npo-sakura.net/bousai-koushien/>
- ・ぼうさいまちづくり大 <https://www.fdma.go.jp/mission/bousai/ikusei/ikusei002.html>
- ・防災チャレンジプラン <http://www.bosai-study.net/top.html>

6. 事前予習用リーディング課題

- 防災白書を概観して日本の防災施策の構造を把握する
- ぼうさい甲子園、ぼうさいまちづくり大賞、防災チャレンジプランから一つを選んで過去の受賞例から気になる事例についてインターネットなどを通じてさらに深く調べてみる。

いくつもの日本

～アイヌ民族から考える多文化共生～

☆講師プロフィール

氏名：若園 雄志郎（わかぞの ゆうしろう）

所属：宇都宮大学

地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
准教授

北海道大学 アイヌ・先住民研究センター
客員研究員



略歴：

北海道釧路市出身。北海道大学アイヌ・先住民研究センター博士研究員を経て、2013年より宇都宮大学基盤教育センターでアクティブ・ラーニングの推進に携わる。2016年より現職。専門は社会教育、マイノリティ教育。近年はアイヌ民族に関する諸問題に加え、社会教育の視点から高校と地域の連携などについての研究をしている。

1. 仕事の内容・研究テーマ

a) 学校（主に高校）と地域の連携

全国的に地方創生の流れの中で、「地域」についての様々な取り組みが活発に行われています。そのうちの1つとして、学校と地域の連携が挙げられます。最近では「コミュニティスクール」という形で、学校と地域が協働して学校の課題・地域の課題の解決を探り、学校の運営に取り組んでいこうとする例も多く見られるようになってきました。

2014年より栃木県では「地域連携教員」を全ての小学校・中学校・高校・特別支援学校に配置して地域連携に積極的に取り組んでいます。特に高校においては地域が抱える様々な課題の解決に向けた「地域対応力」を育てるための地域課題解決学習を積極的に取り入れる動きが出ています。私が関わっているものに、烏山高校の「烏山学」、馬頭高校の「那珂川学」があります。どちらも生徒が少人数のグループを組み、地域における課題を実践的に学び、その解決法を提案するものです。これは当然学校にも地域にもメリットがあるもので、学校としては上述の地域対応力や実践力が生徒に身につく、地域としては若い世代が関わることにより、これまで気づけなかった地域の姿がわかるようになる、地域の魅力を高校生に伝えることができるようになる、といったことが挙げられます。

一方で、これらの活動が活発なのは人口減少地域に顕著であり、いかに学校と地域を盛り上げていくか、または相互に支え合っていくかを模索するものでもあるといえます。

また、地域連携教員と関連して、主に学校以外での教育である社会教育や生涯学習などに関連する企画立案や教育の方法などに関する専門知識を有する社会教育主事の養成も行っています。今までは主に市町村や都道府県において任用される「任用資格」だったものが、2020年度からは「社会教育士」として民間企業・団体・NPO等でも活躍が期待されるようになりました。

b) アイヌ民族に関する教育課題

私が担当している「多文化理解論」という授業ではもちろんですが、「社会調査と地域」や「生涯学習社会論」でもこの問題を取り上げています。また、年によって形態は異なりますが、アイヌ文化を学ぶ公開講座を開催しており、地域の方々への普及啓発を行っています。元々は大学の公開講座として2019年度の本セミナーの講師であった廣瀬隆人先生が始められたものですが、それを引き継ぎ、また地域デザイン科学部における公開講座として2018年度より陽東キャンパスで開催しています。

そもそもなぜ宇都宮でアイヌについての講座をやるのか、と問われたこともあります。それに対してはなぜ国際学部の先生は世界各国の研究を日本の・栃木の・宇都宮で行っているのか、という問いとして返すことができるでしょう。

2. キャリアパス

< 大学 > 早稲田大学に行きたい！ という思いだけで複数学部を受験、何とか一応第1志望の教育学部教育学科社会教育専修に入学する。誰も使ってなさそうな言語を学びたい、という安直な考えで、卒業単位として認められていた語学研究所の科目のうち、「アイヌ語」を選択。「誰も使ってない」というのが勝手な思い込みだったことに気づく。

< 大学院 > 就活はせず、大学院で多文化教育を学ぼうとする。ここでアイヌと博物館教育という博士論文へ至るテーマにたどり着く。当時は北海道に親戚がいたので、そこを拠点としながらアイヌの教育や博物館活動に関する資料収集を行う。また、先輩に勧められ、オーストラリアの先住民族に関する研究も行うようになる。在学中は非常勤講師をしながら博士論文の執筆と就職活動を行うも、お祈りメールの山となる日が続く。

< 北海道大学 > 少々やさぐれていたところに、北海道大学アイヌ・先住民研究センターで博士研究員を募集しているという情報を得るも、まだ博士号を取得しておらず、また、「どうせ出来レースだろうから応募しても無駄だろう」という思い込みで応募しない。いたるところに、自主ゼミでお世話になっていた先生から「君が応募しないというのはあり得ない、すぐに応募しなさい」と言われ、締切ぎりぎり書類を提出。まさかの採用となる。ここでは今に至る多くの人脈と情報を得ることになった。ちなみにここでようやく自立できるだけの収入を得ることができた。

< 宇都宮大学 > 北大は3年の任期付研究員だったため、また次の職を探さなければならなくなるが、やはりお祈りメールだけがたまっていくことになる。プライベートではちょうど縁あって結婚をしたため、職探しに焦りがあり、研究職以外も検討するようになる。1箇所事務職として採用直前までいくも、博士号をまだ取得していなかったことから、このまま諦めていいのかと自問し、次のあてが無いにもかかわらず結局お断りをする。任期切れ直前となり、アイヌではなく社会教育の専門知識を生かし、大学におけるアクティブ・ラーニングの推進を職務とする宇都宮大学基盤教育センターに採用となり、同様に社会教育の専任教員として地域デザイン科学部に移籍する。

以上が私のキャリアパスです。

3. 分科会の内容

数年に1度ぐらい、有力政治家が「単一民族」発言をすることがあります。おそらく彼らとしては積極的にアイヌ民族を差別しているわけではなく、無関心なだけだといえます。しかし、無関心であることもまた差別だということに気づかなければならないでしょう。

授業や公開講座などで、受講者が北海道出身者、あるいは親戚が北海道にいる、という場合もよくあるのですが、「アイヌの存在は知っているけど詳しくはわからない」「学校で習ったような気がする」といった反応が普通です。北海道で生活していたとしても、アイ

ヌ民族を意識するのはせいぜい地名のルーツやたびたび発売されるアイヌ文様を取り入れた商品を見たときぐらいかもしれません。

しかしながら、アイヌ民族をめぐる課題は、その歴史的経緯を考えれば日本全体における大きな問題であることが指摘できます。地名や商品は確かに接しやすく面白いものですので、これからも触れる機会が増えていくことを期待していますが、一方で、「当たり障りの無い文化」だけを選択的に受け入れるのもまた差別への萌芽が潜んでいるといえます。

そこで本分科会では各自（受講者数によっては小グループ）で「アイヌ」に関する話題や課題を調査し、それを相互の共有し議論することで、多文化「共生」とはどのようなことなのかを考えていきます。可能であれば、「テキストの1ページをつくる」ということに取り組んでみたいと思います。

4. キーワードリスト

共生 / アイヌ民族 / ウポポイ（民族共生象徴空間） / イランカラブテキャンペーン

5. 参考資料等

- ・加藤博文・若園雄志郎編『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』山川出版社、2018
- ・瀬川拓郎監修『カラー版 1時間でわかるアイヌの文化と歴史』宝島社、2019
- ・中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社、2019

6. 事前予習用リーディング課題

- ・上記『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』pp 119 -1 4 0（コピー）
- ・アイヌ民族文化財団の中学生向け副読本『アイヌ民族：歴史と現在』

<https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/>

（3冊紹介ある中の真ん中の資料）

※ 「中学生用」ではありますが、内容は一般用としても遜色ありません。

2020 年度国際キャリア教育プログラム セミナー
「国際キャリア教育」事前学習資料集

発行日：2020年7月14日

発行：宇都宮大学 国際学部

〒321-8505 宇都宮市峰町 350

TEL: 028(649)5172 FAX: 028(649)5171

E-mail: kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

学部		学科	
学年		氏名	